

日時：2016年6月11日（土）15:00～18:30

場所：東洋大学 8号館 中2階 第2会議室

出席者：渡邊芳之理事長、藤田主一副理事長、尾見康博、加藤司、荒川歩、松田英子、
小塩真司、山崎晴美、北村英哉、中村真

日本パーソナリティ心理学会第120回常任理事会

報告事項

I 理事長挨拶

II 各種委員会報告

1 機関誌編集委員会（加藤委員長）

(1) 「パーソナリティ研究」第24巻第3号

予定通り3月に出版した。

(2) 「パーソナリティ研究」第25巻第1号

PDF版が完成し、6月初旬にJ-STAGEにアップし、印刷版は7月に出版する予定で作業を進めている。今後もWeb版をできるだけ早く公開する方針で作業を進める。

(3) 「パーソナリティ研究」第25巻第2号

以下の通り掲載論文が決定し、5月末に国際文献社に入稿した。なお、渡邊理事長より、本号に追悼特集が加わる予定であること、および、その進捗状況について報告があった。

	題目	筆頭者
原著	共感—システム化を媒介とした性役割意識のメンタルヘルスへの影響	桃木 Stella 芳枝
原著	パーソナリティ障害傾向とアタッチメント・スタイルとの関連	市川 玲子
原著	若年就労者の仕事満足に対するプロアクティブ行動の効果についての検討	星 かおり
原著	セルフ・モニタリングが組織内政治の知覚およびスキルに及ぼす影響：セルフ・モニタリングの二次元性に注目して	大嶋 玲未
ショート	2項目自尊感情尺度を用いた状態自尊感情の測定—実験的に操作された場面想定法による妥当性の検討—	箕浦 有希久
ショート	中学生用感覚感受性尺度(SSSI)作成の試み	飯村 周平
ショート	自己反芻から脱中心化への影響に対する自己内省の緩衝作用	森 正樹
ショート	抑うつエピソードの経験者と未経験者における社会的問題解決と反すうの差異 —日本人大学生を対象として—	長谷川 晃
ショート	被害的認知と出来事の外傷性が外傷後反応と解離性体験に及ぼす影響	池田 龍也
ショート	日本語版 Trypophobia Questionnaire (TQ-J) の作成	今泉 修
ショート	抑うつを低減する認知的統制に対するソーシャルサポートの効果	神原 広平

(4) 審査状況

年月	採択	審査中	修正中	不採択	取下
1	8	15	20	2	1
2	3	10	15	1	1
3	3	16	12	0	0
4	1	22	21	1	2
5	1	11	19	4	1

採択済み論文 1 篇

(5) 論文採択後、出版に向けてのシステム化

国際文献と協議を重ね、紙媒体でのやり取りを減らし、システム化（電子化）を進めている。今後も、さらなる電子化を検討中。J-STAGE 上では、1 日でも早く掲載されるよう努力している。この報告に関連して、以下の通り、意見交換が行われた。

望ましい提案であり、費用が増額となっても検討する意義がある（渡邊理事長）。採択論文を電子版として早めに公開することを進めていくうえで、紙媒体の巻号の問題を継続して検討する必要がある。投稿状況はどうか？（渡邊理事長） 投稿数が一貫して減少傾向にあり、時期によって投稿数が偏っている現状をふまえて発行の時期を見直すことを検討しても良いのではないか（加藤委員長）。発行の時期を変えるのは簡単な問題ではないので重ねて検討が必要（渡邊理事長）。電子版として早期掲載が可能になることは、早急に検討してほしい（渡邊理事長）。

(6) 英文校閲

校閲会社を変更してから、低価格で校閲を引き受けてくれており、順調にしている。

(7) 機関誌の運営について（相談事項）

加藤委員長より、返信のない論文に関してどうすべきか、一定の期限後に不採択としたいが、意見を伺い、確認をしておきたいという趣旨の相談があった。これに関して、以下の通り、審議が行われた。

修正再審査となっている論文の著者が長期間にわたって修正再投稿の依頼に応じないケースがある（加藤委員長）。投稿者に直接連絡しつつ、4 週間の期限が規定で定められているので、不採択の扱いとしてもやむを得ないのではないかと（渡邊理事長）。システム上、催促の仕組みもある（渡邊理事長）。著者とは連絡を取り、修正再投稿の意思はあるがやむを得ぬ事情があるために投稿が遅れていると判断できる場合は柔軟に対応することにして、それ以外の場合は、不採択として対応することが承認された。

2 経常的研究交流委員会（荒川委員長）

(1) 委員構成

3 年目委員（25 回大会まで）：

石井国雄（清泉女学院大学）、柄本健太郎（東京学芸大学）、小林麻衣（東洋大学）、
本田周二（島根大学）＜副委員長＞、山本ちか（名古屋文理大学短大部）

2年目委員（26回大会まで）：

鈴木公啓（東京未来大学）、二村郁美（名古屋大学）、中山真（鈴鹿大学短期大学部）、服部陽介（京都学園大学）、堀内由樹子（お茶の水女子大学）

1年目委員（27回大会まで）：

後藤崇志（京都大学）、原田新（岡山大学）、松尾由美（関東短期大学）、牟田季純（早稲田大学大学院）、渡辺伸子（筑波大学大学院）、荒川歩（武蔵野美術大学）＜委員長＞

以上の委員構成の報告を受けて、意見交換が行われ、委員の人数が多いのではないか、また、院生に委員を担ってもらうのは負担が大きいのではないかとの意見が寄せられた。これについて、賛否両論の意見が交わされた。今後、各委員会の委員の人数を定めるかどうか、委員に院生会員を加えるかどうかについて、継続検討することを申し合わせた。

(2)活動の現状

現在、「ミドルサイコロジストプログラム班」「ソーシャルランチ班」「大会企画実施班」「ツイッター班」「プラットホーム企画検討班」「3月企画検討班」の6つの班に分かれて活動を行っているが、「大会企画実施班」についてはすでに報告済みのため、また、「3月企画検討班」はまだ十分進んでいないため、残りの4つの活動について報告があった。また、大会時の企画を減らして、大会とは別の3月の企画などを検討中である旨の報告があった。

4つの班の活動報告を受けて、以下の意見交換が行われた。

これらの企画は、いずれも良いものであると考える（渡邊理事長）。ただ、企画数が多いので運用が大変ではないかとの心配がある。委員に院生が多いが、委員は有職者を中心に編成して、今後、院生には負担の少ない手伝いにとどめていくことを検討してはどうか（渡邊理事長）。これまでは仕事の内容を伝えずに委員になってもらったという望ましくない経緯があったので、そこは改善したいし、院生にしかできない仕事をやってもらうことを検討したい（荒川委員長）。現状の仕事の負担は院生に申し訳ないとすら思うので、今後1～2年をかけて良い方向に改善をお願いしたい（渡邊理事長）。

3 広報委員会（松田委員長）

(1) 委員構成

委員長（～2018年大会）：松田英子（東洋大学）

副委員長（任期末定）：古村健太郎（新潟大学） 業務統括

委員

2013年大会～2016年大会

川本哲也（慶応義塾大学） メールニュース A

木戸彩恵（関西大学） web ページ A

並川 努（新潟大学） web ページ A

渡部麻美（東洋英和女学院大学） メールニュース A

2014年大会～2017年大会

野崎優樹（京都大学）	メールニュース B
島 義弘（鹿児島大学）	メールニュース B
藤井 勉（長崎大学）	web ページ B
渡邊ひとみ（同志社大学）	web ページ B

2015年大会～2018年大会

加藤 仁（名古屋大学）	web ページ C
佐藤史緒（神奈川工科大学）	メールニュース C
仲嶺 真（筑波大学）	メールニュース C
福沢 愛（関西学院大学）	web ページ C

*業務内容

- ・以下のように役割分担をして、委員の負担を軽減している

メールニュース A：メールニュースに関する統括、全般的サポート

メールニュース B, C：メールニュース配信作業（文面作成→ダブルチェック→配信手続き） Bは奇数月、Cは偶数月を担当

web ページ A：web ページ更新に関する統括、全般的サポート

web ページ B, C：web ページ更新作業（HTML 作成→ダブルチェック→更新作業）

B と C は交互に更新作業を行う

(2)ウェブサイトの更新、メールニュースの配信などの活動内容が報告された。

(3)大会関連

大会前日に開催予定である YPP2016 の概要について、以下の通り、報告された。

- ・開催日時：2016年9月13日(火) 14:00 ～ 17:30
- ・開催場所：関西大学千里山キャンパス 第3学舎 A403, A404 教室
- ・主催者：日本パーソナリティ心理学会広報委員会
- ・企画内容：

他の研究者と意見交換をしたい、アドバイスをもらいたいと思ったことはありませんか。日本パーソナリティ心理学会では、幅広い研究分野の若手研究者が活躍しております。そんな方々とのつながりをつくることができれば、皆様の大きな財産となること間違いありません。しかし、研究者同士が交流する機会はあまりないのが現状です。

そこで YPP2016 では、“異なる機関・研究室の若手研究者との交流を通して心理学の研究分野全体に対する認識を深めること”，“参加者間のディスカッションを通して新たなつながりを得ること”を目的として、若手研究者同士が活発に交流できる企画を用意しました。

企画1：研究発表&ディスカッション

発表をご希望の方に、ご自身の研究について、15分程で全体に向けて発表していただきます。多くの方に自分の研究について知っていただき、様々な視点からのご意見をいただく良い機会となります。

発表を希望しない参加者の皆様には、発表内容を受けてのグループディスカッションを行っていただきます。発表を聞くことやグループディスカッションを通して、他の参加者

の見方や考え方を学んだり、新しいつながりをつくったりする良い機会となります。企画1での発表を希望しない方も、積極的にご参加ください。

企画2：ミニポスターセッション

企画1で発表を行わなかった方には、グループに分かれ、学会発表で用いる（あるいは過去の発表等で用いた）ポスターのA4縮刷版を用いて、5分程の短い研究発表を行っていただきます。ご自身の研究について、気軽に議論を交わしていただきます。

- ・企画者：樫原潤（日本大学）、田村紋女（広島大学）、三和秀平（筑波大学）、池江咲耶（北星学園大学）
- ・担当広報委員：加藤仁（名古屋大学）、佐藤史緒（神奈川工科大学）、仲嶺真（筑波大学）、福沢愛（関西学院大学）
- ・責任者 松田英子（東洋大学）

(4)書評

- ・書籍の評者への寄贈および書籍の管理と書評の取り扱いについて

松田委員長より、他学会でも学会が所蔵するという形式はとっておらず（保管方法の問題もある）、評者に寄贈という形をとっているのが実情であり、もともとは、若手への支援という意味合いもあったので、今後もこれを踏襲させていただきたいとの要望が示され、審議の結果、承認された。

- ・朝倉書店から「情動学シリーズ」の書評執筆依頼が届いているとの報告があった。

(5)予算

- ・松田委員長より、事業活動費の計上について相談があった（この問題については、後述の審議事項1「2015年度決算、2016年度予算の件」で審議された）。

(6)今後の活動予定（継続を含む）

- ・ウェブサイトの更新、メールニュースの配信（随時）
- ・委員分担コンテンツの更新
- ・YPP2016の準備
- ・WEB更新作業のアウトソーシングの検討

松田委員長より、WEB更新作業が委員の負担となっており、これを外注できないかとの相談があった。審議の結果、外注を検討することが承認された。今後、見積りを取ること、見積り額によっては、アルバイトに依頼することも視野に入れて検討することを申し合わせた。

4 国際交流委員会（小塩委員長）

(1)委員構成

<2016年度大会まで（2期目）>

- 守谷順（関西大学）
- 田中麻未（千葉大学）

<2017年度大会まで（1期目）>

田島 祥（東海大学）

高野慶輔（ルーヴェン大学）

<担当常任理事>

小塩真司（早稲田大学）

(2) Terracciano & Sutin 先生招聘の件

招聘の概要について、以下の通り報告があった。

- ・事前に予算執行させていただいた 35 万円

→5/6 に為替レート約 107 円で Terracciano 先生に送金済み（Paypal 領収書参照）

→大会当日、領収書にサインをいただく予定

- ・企画内容

講演：Personality and Health（パーソナリティと健康の関連）

講演者：Antonio Terracciano（フロリダ州立大学）

司会：小塩真司（早稲田大学）

ワークショップ：Personality and Physical Health（パーソナリティと身体的健康）

企画：国際交流委員会

共催：東洋大学 HIRC21, 日本社会心理学会

司会者：堀毛一也（東洋大学）

講演者：Angelina Sutin（フロリダ州立大学）

話題提供者：榊原良太（鹿児島大学）、

川本哲也（日本学術振興会・慶應義塾大学）、

西田裕紀子（国立研究開発法人国立長寿医療研究センター）

指定討論者：Antonio Terracciano（フロリダ州立大学）

ワークショップに関して、社会心理学会に共催の提案をし、常任理事会において承認された
(3/15)

(3)英語 webpage の件

- ・英語 webpage の英文作成、校閲済み（¥2,604）である旨の報告があった。

- ・小塩委員長より、検討依頼事項として、除名となった大会委員長の記載をどのように取り扱うかについて相談があり、審議の結果、大会委員長であったという事実は、そのままウェブページに掲載するという方針が確認された。

(4)国際心理学会（ICP2016）企画の件

ICP2016 の企画概要について以下の通り報告があった。

SPS-13 Thursday, July 28, 14:40 – 16:10

Exhibition Hall E204

Accumulated evidence of personality development in Japan (Thematic Session sponsored by The Japanese Society of Personality Psychology)

Organizer: Oshio, Atsushi (Japan)

Personality development among Japanese children / Tani, Iori (Japan)

Personality development in a Japanese adolescent sample / Kawamoto, Tetsuya (Japan)

Age differences in the Big Five personality traits across the lifespan among Japanese adults / Takahashi, Yusuke (Japan); Hoshino, Takahiro

Personality development in a Japanese elderly population / Nishita, Yukiko (Japan)

Discussant: Oshio, Atsushi (Japan)

5 学会活性化委員会 (山崎委員長)

(1) 委員構成 (任期はいずれも 2018 年度総会終了時まで)

委員長 山崎晴美 (日本大学)

副委員長 藤田圭一 (日本体育大学)

委員 齊藤 崇 (日本体育大学) 陶山 智 (亜細亜大学) 中谷陽輔 (同志社大学)

森 津太子 (放送大学) 矢澤美香子 (武蔵野大学) 守谷 順 (関西大学)

(2) 優秀大会発表賞の審査について

第 25 回大会の優秀発表賞の審査について以下の通り、報告があった。

一次審査審査員への依頼状況現在、41 名ほどの方より承諾を得ている。返信のない方については、督促を行った。6 月 18 日 (土) に審査員への振り分けを行い、6 月下旬に審査書類を送付する。1 次審査については、発表 1 件につき 3 名で審査を行うこととし (審査員 1 名につき 10 本強を想定)。7 月下旬が 1 次審査締切の予定。2 次審査は例年通り、大会会期中に審査を行うこととし、8 月上旬には理事の大会参加の確認をし、2 次審査依頼書類を 9 月はじめに送付する予定。

(3) 大会支援について

今後の大会支援の在り方について、以下の通り提案があった。

① 大会運営ガイドブック (仮称)

本ガイドブックは、学会から大会校に対して運営の指針を示すというものではない。開催校が大会運営に当たって、参考すると便利という方向で作成していく。従ってマニュアルという名称は用いない。

2017 年度大会を予定の学校においては、学生のスタッフは短大生、学部生が中心であり、教員スタッフと学部生スタッフとの間に入る院生が不在で行わなければならない。今回作成されるガイドブックは、一般的な大会スタッフマニュアルを想定して作成することとし、学部生も読んでわかる具体的な内容であり、毎年大会校に引き継いでいけるものとする。作成に当たっては、本学会や他学会の運営を参考に作成していくこととした。

② 大会校への支援について

大会校がどのような支援を必要とするか、大会校によって異なる。そこで、大会運営に関わる業務について、「学会で出来ること」と「大会準備委員会で行うこと」に整理し、今後の大会校からの要請に応える準備とした。

(4) 優秀大会発表賞のあり方について

今年度学会にて参加者にアンケートを配付し、大会中に回収し、意見を集めることとした。発表賞については、本委員会でもいくつかの具体案が出たが、どのような賞が大会の活性化につながるか。何が学会の活性化につながるかという会員の意見をも参考に、開催校と意見交換を行っていきたいと考える。

6 学会賞選考委員会（北村委員長）

北村委員長より、学会賞選考の第1次審査において8名の理事から推薦があったので、これに基づいて第2次審査を行いたいとの報告があった。

2次審査は、6月中か7月初めにかけて行う予定であるが、2次審査においては推薦者（理事）の推薦理由を審査者に公開することを申し合わせた。

2次審査は、5人の審査委員に審査してもらうこととし、順位（1位から3位）をつけてもらったうえで、それらを点数化する（例えば、5、3、1点とするなど）という方針が示された。今後、点数の配分の変更があるかもしれないが、基本方針については、承認された。

来年に向けて、もう少し推薦本数を増やすにはどうしたらよいかを検討していきたいとの意向が示された。

III 日本心理学諸学会連合

日心連理事会（渡邊理事長）

6/12に行われる議事内容を次回の常任理事会で報告したい（急ぎの案件があれば、MLで報告する）。

IV 第25回大会準備状況について（北村準備委員長）

6月1日現在の予約参加者数などについて、以下の通り、報告があった。

- 参加申込件数：182件
 - (1)懇親会参加件数：64件
 - (2)会員総会出席者数：102件
 - (3)論文集追加購入：41件
- ポスター発表申込件数：137件
- 自主企画シンポジウム：2件

また、講演・シンポジウム・ワークショップ等の企画内容および原稿締切、ポスター発表の概要、懇親会の概要、出展を予定している団体、大会全体の予算（収入・支出の見込み）、今後のスケジュール等について報告があった。

VIII 日本心理研修センター主催「公認心理師セミナー」への参加報告（藤田副理事長）

現在、「公認心理師」の受験資格に対応するカリキュラムが検討されており、2017年早々に決定したカリキュラムの説明が行われる見通しであること、医療機関での実習を重視したカリキュラムが策定される見込みであること、2018年に移行措置該当者向けの第1回試験を実施する予定であることが報告された。

IX その他
特になし。

審議事項

I 2015年度決算、2016年度予算の件（財務に関する今後の方針を含む）

尾見財務担当常任理事より、2015年度決算案が示され、審議の結果、承認された。併せて、各種委員会および事務局の2015年度の領収書と残金を尾見常任理事に提出・返納することを申し合わせた。

尾見財務担当常任理事より、2016年度予算案が提示され、今後の財務方針も含めて審議が行われた。審議の概要は以下の通り。

- ・ 予算費目の区分については、社団法人における区分に基づいて、管理費（事務的な部分）と事業費から成ることとする。
- ・ 基本基金の取り扱いについては、継続検討する。
- ・ 監査の手続きを検討し、今後、必要に応じて従来の変更する可能性がある。
- ・ 2016年度より予算の執行方法をあらため、従来の年度当初に現金を各種委員会の委員長に渡す方式から、その都度、申請・請求する方式に変える。具体的には、委員長から国際文献社に予算請求を行い、その内容を財務担当常任理事が確認・承認したうえで、国際文献社から該当口座に振り込むという方式とする。
- ・ 立替・振込を原則とする。予算請求の時期によっては、立替期間が長くなる場合も予想される。立替期間の長期化に伴い何らかの問題が生じる場合は、財務担当常任理事に相談する。
- ・ 当初予定していなかった企画があれば、常任理事会に諮り、承認を得たうえで予備費から支出するという基本方針に変える。
- ・ 飲食費については、前回常任理事会において、理事長より原則として禁止する方針が打ち出されたが、急な運用は難しい面もあるので、今年度については、すべての飲食を禁じるということは打ち出さずにおくことにし、来年度以降に向けては議論を続けることを申し合わせた。
- ・ 松田広報委員長より、2016年度予算案の広報委員会事業費がゼロとなっているが、委員会活動を行うために事業費計上の要望があった。渡邊理事長より、謝金・交通費以外は、事業費として計上してよいのではないかとの意向が示され、事業費を計上することが承認された。
- ・ 山崎常任理事より、予算請求から支給に至る過程をマニュアル化してほしいとの要望が出された。
- ・ 大会補助金（50万円）について審議した結果、当面は据え置きとする方針を申し合わせた。併せて、渡邊理事長より、万一、大会の収支が赤字となった場合は、学会として、再補助を視野に入れて柔軟に対応したいとの意向が示された。
- ・ 選挙費用積立金（20万円）について審議した結果、当面は据え置きとし、次期役員選挙

から選挙業務を外注する方針が確認され、次回選挙の前年度に事務局で外注の準備を進めることを申し合わせた。

- ・常任理事会参加者の交通費の支給方法について審議が行われ、2016年度より、年度末に実費を一括して支給（振込）するという方式に変更することが承認された。また、常任理事会参加者に飲料（ミネラルウォーター）を配布していたこれまでの方式をあらため、飲料代についても、年度末に「基準単価×参加回数」を一括して支給（振込）する方式とし、参加者は各自で飲料を購入・持参することを申し合わせた。

II 会則改正の件

第2条（事務局） の改正案

中村事務局長より、第119回常任理事会での審議をふまえて、以下の通り、「会則第2条（事務局）」に事務局の住所を記載することが提案された（アンダーライン部分を追記する）。審議の結果、住所の表記方法に問題がないかを他学会の会則を参考に、再度、確認したほうが良いとの意見があり、継続審議とすることを申し合わせた。

第2条（事務局） この会の事務局は株式会社国際文献社（〒162-0801 東京都新宿区山吹町 358-5 アカデミーセンター）におく。

第8条（役員）②副理事長 の改正案

渡邊理事長より第119回常任理事会での審議をふまえて、以下の通り、「会則第8条（役員）②副理事長」を改正することが提案された。審議の結果、常任理事会として改正案を承認することを決定し、第25回大会時に行われる会員総会での審議に諮ることとした。

（旧）第8条 ②副理事長 1名 理事の中から理事長の指名により決定し、副会長として会長を補佐する。

（新）第8条 ②副理事長 1名 理事の中から理事長の指名により決定し、副会長として会長を補佐するとともに、理事長に事故あるときまたは欠けたときはその職務を代行する。

III 編集規程の改訂の件（追認事項）

加藤機関誌編集委員長より、第119回常任理事会およびその後のML審議で承認された編集規程の13条と14条の改訂案を追認することが提案された。改訂後の条文は以下の通りである。審議の結果、追認された。

13. 投稿論文に不正行為や研究者倫理に抵触する行為が疑われた場合は、常任編集委員会において検討し、その結果により採択あるいは掲載後であっても当該論文の審査を取り消すことがある。また、不正行為や倫理問題に抵触する行為が認められた場

合、会則第7条の適用を受けることがある。

14. 論文の掲載が著者の希望、または前項に述べたような理由で取り消された場合、当該論文の製版印刷にかかわる費用の全部または一部を著者に請求することがある。

IV 常任理事会に各種委員会委員長が出席できない場合の対応（代理出席）について
審議の結果、常任理事会に各種委員会の委員長が出席できない場合は、その委員会から委員長に代わる代理者を出席させることができること、代理者は委員会報告を行うことにとどめ、常任理事に認められた議決権は有しないことを申し合わせた。

V メールニュースの配信を希望しない会員が増加していることへの対応について
審議の結果、渡邊理事長と中村事務局長が国際文献社と協議しながら、この問題の解決策を検討することを申し合わせた。次回以降の継続審議とする。

VI 第119回常任理事会議事録の件
審議の結果、承認された。

VII 会員の入退会に関する件

事務局より、別紙の通り、新入会希望者46名（うち5名はML審議にて承認済み）、退会希望者28名の一覧が示され、審議の結果、承認された。また、宛先不明者が報告された。

以上の承認を受けて、2016年6月2日現在、会員総数は930名である。
（内訳は、一般会員656名、院生会員259名、学生会員4名、名誉会員8名、賛助会員3名。） ※ 今回審議対象の新規入会希望者5名は含まれない。

VIII 会員増にともなう「パーソナリティ研究」増刷の件

国際文献社より、会員数の増加にともなう本学会機関誌「パーソナリティ研究」の増刷について、25巻1号の印刷前に、検討していただきたい旨の依頼があった。審議の結果、25巻1号に限り20部増刷し、以降については、在庫部数が増えることを避けるために、印刷する前にその都度、印刷部数を検討することを決定した。

IX 国際文献社との各種契約の件

国際文献社より、2016年度の契約内容の見直し（会計業務を受託した場合を含む）について提案があり、審議の結果、契約の内容については承認することを申し合わせた。ただし、契約書の一部の表記について、表現を修正する必要があるのではないかとの指摘があったので、その対応を渡邊理事長と中村事務局長に一任し、両者が連携して国際文献社との間で調整を行い、契約を締結することを申し合わせた。

X その他
特になし。

XI 次回常任理事会日程について

次回は、2016年8月22日（月）15:00から東洋大学で行う。